

1 ha大区画水田での除草剤畦畔1辺処理による省力効果

【1 成果の概要】

- (1) 1ha大区画水田で、ほ場長辺の畦畔1辺から、ピラクロニル、プロピリスルフロン、プロモブチドを含む自己拡散型浮遊粒除草剤（以下「FG剤」という。）を散布した場合（図1、2）、作業時間は約2分（従来の14%）と省力化できます（表1）。
- (2) 散布後、除草剤成分はほ場全体へ拡散します。

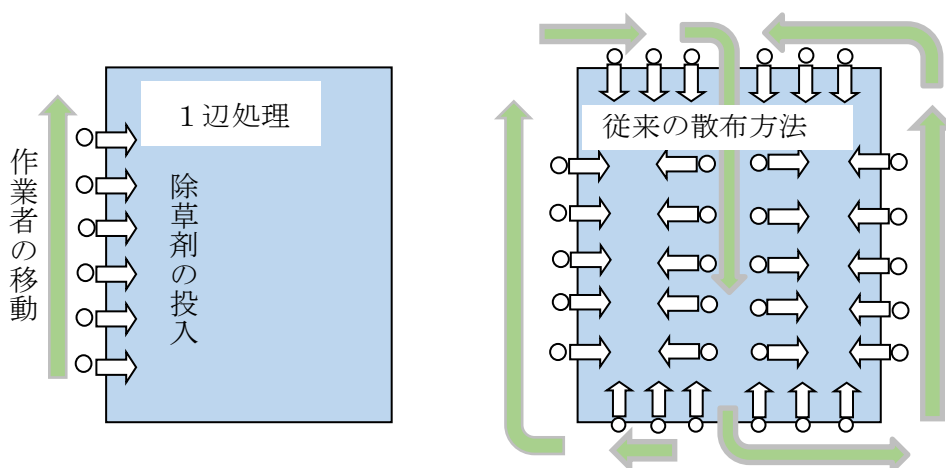


図1 除草剤散布のイメージ
 左は、1辺処理で、FG剤を畦畔長辺1辺から手振りで散布。
 右は、従来の散布方法で、ジャンボ剤を四方の畦畔とほ場内から手振りで散布。

表1 除草剤の散布時間（R3）

試験区	除草剤	散布方法	散布量	散布時間	同左比
1辺処理	FG剤	畦畔長辺1辺から手振り	4kg	1分59秒	14
従来の散布方法	ジャンボ剤	畦畔とほ場内から手振り	40g×10個×10袋	14分15秒	(100)

※長辺125m、短辺80mの1 ha水田で試験を行った。1辺処理は5月11日、従来の散布方法は5月13日に田植を行い、それぞれ翌日にプレチラクロール剤を散布した。その後、1辺処理は、5月24日に有効成分ピラクロニル、プロピリスルフロン、プロモブチドからなるFG剤（アップレZ400FG）を散布、従来の散布方法は、5月28日に1辺処理と同一成分のジャンボ剤を散布した。

【2 留意事項】

- (1) FG剤で、ほ場長辺の畦畔1辺から散布を行うときは、水深10cm程度とし、風下からの散布は行わないでください。薬剤散布後に風向きが変わっても効果に影響ありません。
- (2) 田面が露出しないように、耕起、代かきは均平に努め、除草剤は表層はく離・藻類を避けて散布を行います。散布後1週間は止水し、除草剤成分がほ場外へ流出しないように注意してください。